

《岩崎鬼剣舞-東北の鎮魂と祈りの舞》

『究竟(くつきょう)の地 岩崎鬼剣舞(おにけんばい)の一年』は、岩手県北上市に1300年続くといわれる伝統芸能「鬼剣舞」を通して、芸能が生活の一部となり、地域の人々が絆を深めている姿を1年間に渡って追いつけたドキュメンタリー映画である。

「鬼剣舞」は異形の面をつけて勇壮に地を踏みしめる、鎮魂と祈りの舞いである。北上市には各地域でそれぞれの踊り組があり、岩崎地区の「岩崎鬼剣舞」がその源流であるといわれている。

踊り手たちの多くは兼業農家の大工や職人、または勤め人で、忙しい仕事の合間を縫って練習に励み、子供たちに教え、ほぼ毎週土日にある公演依頼のために、日々奔走している。

岩崎では、老若男女みな鬼剣舞を踊る。それはあたかも地域全体が鬼剣舞を中心に回っているかのようであり、かつて宮沢賢治が『農民芸術概論綱要』の中で述べた「究竟地」を体現しているかのようでもある。

本企画「岩崎鬼剣舞-東北の鎮魂と祈りの舞」では、国指定重要無形民俗文化財である「岩崎鬼剣舞」による演舞公演、ドキュメンタリー映画『究竟の地 岩崎鬼剣舞の一年』(2008年、ロングバージョン161分版)上映、映画監督・三宅流と法政大学教授・岡村民夫によるシンポジウムを行なう。

公演、上映、シンポジウムを組み合わせるにより、芸能と身体、映像についてより理解を深める狙いで行なわれる。

この地に脈々と受け継がれてきた芸能の力、人と人とが繋がる力。その強さはどこからくるのか。その力の源泉に迫ることは、これからの私たちの生活、それぞれの「究竟の地」を考えるうえで、貴重な機会になるだろう。